

フナバラソウ	<i>Vincetoxicum atratum</i> (Bunge) C.Morren et Decne.	絶滅危惧 I 類
(環境省:絶滅危惧 II 類)		ガガイモ科
選定理由	既知のすべての生育地で生育条件が著しく悪化しており、個体数が危機的水準まで減少している。	写真(清水英彦) 
形態の特徴	多年草。全体に密に軟毛があり、直立して高さ40-80cmになる。葉は対生、楕円形～卵形で、縁は著しく波打つ。両面に縮れた毛があり、特に裏面はピロードの感触がある。	
生態的特徴	丘陵地から低山地の日当たりのよい草地に見られる。花期は6月。	
分布状況	北海道、本州、四国、九州に分布する。岐阜県においては県南東部の南に見られる。	分布図 
減少要因	本種の生育環境である丘陵地は、人間の生産活動の活発な場所でもあり、改変により生育地が消失している。また生育地の管理放棄による植生遷移の進行が減少を加速させている。	
保全対策	丘陵地や低山地にある里山の草地は開発の影響を受けやすいため、生育地の開発規制を行うとともに、草刈りや火入れによる草地環境の保全・管理を継続していく必要がある。	
特記事項		
参考文献	「日本の野生植物 草本Ⅲ 合弁花類」(佐竹義輔ほか(編), 1981年)	

文責: 奥田浩之